

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問1 医薬品の本質に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 医薬品は、人や動物の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されること、又は、人や動物の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする生命関連製品である。
- b 殺虫剤の中には、誤って人体がそれに曝されれば、健康を害するおそれがあるものもあり、人体への使用が目的でない医薬品であっても、人の健康に影響を与えることが考えられる。
- c 医薬品が人体に及ぼす作用は、複雑かつ多岐に渡るが、科学の進歩により、医薬品が人体に及ぼす作用は、全て解明されている。
- d 医薬品は多くの場合、人体に取り込まれて作用し、効果を発現させるものである。

下欄

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	誤	誤

問2 次の医薬品成分のうち、牛乳によるアレルギー症状を起こしたことのある人が使用を避けるべきものを、1つ選びなさい。

- 1 メキタジン
- 2 アスピリン
- 3 塩酸ブロムヘキシン
- 4 タンニン酸アルブミン
- 5 塩酸ロペラミド

問3 医薬品の有効性・安全性に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 医薬品は、人の生命や健康に密接に関連するものであるため、高い水準で均一な品質が保証されていなければならない。
- 2 薬事法では、健康被害の発生の可能性がある場合に限り、異物等の混入、変質等があってはならない旨を定めている。
- 3 一般用医薬品の販売に従事する専門家においては、常に新しい情報の把握に努める必要がある。
- 4 医薬品は、有効性、安全性等に係る知見の積み重ねによって、有効性、安全性等に関する情報が集積されており、随時新たな情報が付加されるものである。

問4 医薬品の副作用に関する次の記述について、()に入れるべき正しい字句を下欄から1つ選びなさい。なお、2つの()内には同じ字句が入ります。

我が国では、医薬品の副作用を「()が適正な使用目的に従い適正に使用された場合においてもその()により人に発現する有害な反応」(独立行政法人医薬品医療機器総合機構法第4条第6項)と定義している。

下欄

- | | | |
|----------|-----------|---------|
| 1 医療用医薬品 | 2 処方せん医薬品 | 3 許可医薬品 |
| 4 一般用医薬品 | 5 薬局医薬品 | |

問5 次の医薬品成分とその副作用の関係について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- | | | | |
|---|-------------|---|---------|
| a | 臭化水素酸スコポラミン | — | 目のかすみ |
| b | 塩酸ジフェンヒドラミン | — | 眠気 |
| c | 塩酸ロペラミド | — | 下痢 |
| d | スクラルファート | — | 胃液の分泌亢進 |

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問6 医薬品の適正使用に関する次の記述について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 早く頭痛が治まってほしかったので、一度に2回分の量を服用した。
- 2 一般用医薬品を使用していたところ、重大な副作用の兆候が現れたので、用量を減らして継続使用した。
- 3 子供が熱を出したので、添付文書の用法・用量等を確認せずに、成人用の解熱薬の半分の量を飲ませた。
- 4 医療機関で抗生物質を処方され、服用により症状が改善したが、医師の指示どおり、服用を継続した。

問7 かぜ薬に使用される次の医薬品成分のうち、抗ヒスタミン作用を期待して広くアレルギー用薬にも配合されることから、併用に注意が必要なものを1つ選びなさい。

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 イソプロピルアンチピリン | 2 ゴオウ |
| 3 ノスカピン | 4 フマル酸クレマスチン |
| 5 グアイフェネシン | |

問8 医薬品の相互作用に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 複数の医薬品を併用した場合、又は特定の食品（保健機能食品や、いわゆる健康食品を含む。）と一緒に摂取した場合に、医薬品の作用が増強したり、減弱したりすることを相互作用という。
- 2 相互作用には、医薬品が吸収、代謝（体内で化学的に変化すること）、分布又は排泄される過程で起こるものと、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。
- 3 医薬品の吸収や代謝の過程で起こる相互作用として、酒類（アルコール）との飲み合わせがある。
- 4 コーヒーやお茶には、カフェインが含まれているが、カフェインを主成分とする眠気防止薬と一緒に摂取しても、カフェインの過剰摂取の原因となることはない。

問9 小児の医薬品使用に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 医薬品の使用上の注意において、小児という場合には、おおよその目安として12歳未満を言う。
- b 小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が低い。
- c 5歳未満の幼児に使用される錠剤、カプセル剤等の医薬品では、服用時に喉につかえやすいので注意するよう添付文書に記載されている。
- d 小児は、吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しやすいため、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしやすい。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	正	誤	誤

問10 高齢者の医薬品使用に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 高齢者は、生理機能が衰えつつあり、特に、肝臓や腎臓の機能が低下していると、医薬品の作用が強く現れやすい。
- 2 医薬品の使用上の注意等において「高齢者」という場合は、おおよその目安として75歳以上を指す。
- 3 医薬品の副作用で口渇を生じることがあり、高齢者は、誤嚥を誘発しやすくなるので注意が必要である。
- 4 高齢者では喉の筋肉が衰えることにより、嚥下の機能が損なわれている場合がある。

問11 次の医薬品成分のうち、添付文書の使用上の注意において、妊婦又は妊娠していると思われる人は使用しないことと記載されるべきものを1つ選びなさい。

- | | | |
|-----------|------------|-----------|
| 1 鉄剤 | 2 オキセサゼイン | 3 ビタミンE製剤 |
| 4 塩化リゾチーム | 5 酸化マグネシウム | |

問12 プラセボ効果に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 プラセボ効果は、不確実であり、それ自体を目的として医薬品が使用されるべきではない。
- 2 プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、不都合なもの（副作用）は含まれない。
- 3 医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に薬理作用によらない作用を生じることをプラセボ効果という。
- 4 プラセボ効果は、主観的な変化だけでなく、客観的に測定可能な変化として現れることもある。

問13 医薬品の品質に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から
選びなさい。

- a 医薬品は、適切な保管・陳列がなされていれば、経時変化による品質の劣化（変質・変敗）はない。
- b 医薬品が保管・陳列される場所については、清潔性が保たれなければならない。
- c 医薬品に配合されている成分には、高温や多湿、光（紫外線）によって品質の劣化を起こしやすいものが多い。
- d 医薬品は、品質の劣化が起きると、効き目が低下したり、人体に好ましくない作用をもたらす物質を生じることがある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	正	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	正	誤	誤

問14 一般用医薬品に関する次の記述について、()に入れるべき正しい字句を
下欄から1つ選びなさい。

一般用医薬品は、薬事法上「医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が著しくないものであって、() から提供された情報に基づく需要者の選択により使用されることが目的とされているものをいう。」(第25条第1項)と定義されている。

下欄

- 1 登録販売者
- 2 薬剤師その他の医薬関係者
- 3 医師
- 4 医療従事者
- 5 医師若しくは歯科医師

問15 次の記述のうち、医薬品の販売に従事する専門家が、一般用医薬品の購入者に確認する事項として適切であるものを「正」、適切でないものを「誤」として、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 使用する人が、医療機関で治療を受けていないか。
- b その医薬品がすぐに使用される状況にあるか。
- c 症状等がある場合、それはいつ頃からか、原因や患部等の特定はなされているのか。
- d 何のために、その医薬品を購入しようとしているのか。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	正	誤	誤

問16 HIV訴訟に関する次の記述について、()に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

(a) 患者が、ヒト免疫不全ウイルス (HIV) が混入した原料血漿から製造された (b) の投与を受けたことにより、HIVに感染したことに対する損害賠償訴訟である。

下欄

	a	b
1	白血病	血液凝固因子製剤
2	白血病	ヒト免疫グロブリン製剤
3	血友病	ヒト免疫グロブリン製剤
4	血友病	血液凝固因子製剤
5	多血症	ヒト免疫グロブリン製剤

問17 次の医薬品成分のうち、添付文書の使用上の注意において、「連用しないこと」と記載されるべきものを1つ選びなさい。

- | | | | | | |
|---|--------|---|----------|---|------------|
| 1 | ビタミンB1 | 2 | ヒマシ油 | 3 | タンニン酸アルブミン |
| 4 | カルシウム | 5 | 酸化マグネシウム | | |

問18 スモン訴訟に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 鎮咳薬として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- 2 スモンはその症状として、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れる。
- 3 我が国では、1970年8月になって、スモンの原因はキノホルムであるとの説が発表され、キノホルム製剤は、同年9月に販売が停止された。
- 4 サリドマイド訴訟、スモン訴訟を契機として、1979年、医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図るため、医薬品副作用被害救済制度が創設された。

問19 一般用医薬品の役割に関する次の記述について、適切でないものを1つ選びなさい。

- 1 重度な疾病に伴う症状の改善
- 2 生活習慣病等の疾病に伴う症状発現の予防
- 3 生活の質（QOL）の改善・向上
- 4 健康状態の自己検査
- 5 健康の維持・増進

問20 セルフメディケーションに関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 医薬品の販売等に従事する専門家は、購入者等のセルフメディケーションについて、医薬関係者の一員として共に取り組むという姿勢で情報提供しなければならない。
- 2 購入者等のセルフメディケーションを支援するためには、医薬品の販売に結びつけるよう情報提供を行うことが重要である。
- 3 WHO（世界保健機関）によれば、セルフメディケーションとは、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てする」とこととされている。
- 4 一般用医薬品の利用のほか、食事と栄養のバランス、睡眠・休養、運動、禁煙等の生活習慣の改善を含めた健康維持・増進全般について「セルフメディケーション」という場合もある。

主な医薬品とその作用

問21 かぜ薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a グリチルリチン酸二カリウムは、医薬品では1日摂取量がグリチルリチン酸として200mgを超えないように用量が定められている。
- b 塩酸メチルエフェドリンは、アドレナリン作動成分であり、依存性があることに留意する必要がある。
- c セミアルカリプロテイナーゼ及びブロメラインは、いずれも蛋白質分解酵素であるが、フィブリノゲンやフィブリンを分解する作用があるのは、セミアルカリプロテイナーゼのみである。
- d トラネキサム酸は、体内での炎症物質の産生を抑えることで炎症の発生を抑え、鼻粘膜やのどの腫れを和らげると考えられているが、血液凝固異常（出血傾向）の症状がある人では、出血傾向を悪化させるおそれがある。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問22 かぜ及びかぜ薬に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 かぜの症状は、生体にもともと備わっている免疫機構によってウイルスが排除されれば自然に治るので、安静にして休養し、栄養・水分を十分に摂ることが治療の基本である。
- 2 かぜ薬（漢方処方成分、生薬成分のみから成る場合を除く。）の使用上の注意において、肝機能障害は、配合成分によらず共通で記載される副作用の1つである。
- 3 かぜであるからといって必ずしもかぜ薬（総合感冒薬）を選択するのが最適というわけではなく、発熱、咳、鼻水など症状がはっきりしている場合には、解熱鎮痛薬、鎮咳去痰薬、鼻炎用内服薬などを選択することが望ましい。
- 4 かぜ薬の使用にあたり、日頃健康な身体状態が保たれている高齢者にあっては、基本的に通常の成人と同様の対応で問題ないとされている。

問23 化学的に合成された解熱鎮痛成分に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 発熱に対して、中枢でのプロスタグランジンの産生を抑えるほか、腎臓での水分の再吸収を抑制して、発汗を抑える作用もある。
- 2 末梢でのプロスタグランジンの産生抑制は、腎臓の血流量を低下させることにつながるため、腎機能に障害があると、その症状を悪化させるおそれがある。
- 3 胃への影響を軽減するため、なるべく空腹時を避けて服用することとなっている場合が多い。また、胃・十二指腸潰瘍があると、その症状を悪化させるおそれがある。
- 4 まれに生じる重篤な副作用の1つに喘息があり、「アスピリン喘息」としてよく知られているが、アスピリン特有の副作用ではなく、他の解熱鎮痛成分でも生じる可能性がある。

問24 解熱鎮痛薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選
びなさい。

- a アスピリン（アスピリンアルミニウムを含む。）には、血液を凝固しやすくさせる作用がある。
- b イブプロフェンは、アスピリン等に比べて胃腸への影響が少なく、抗炎症作用も示すことから、頭痛、咽頭痛、月経痛、腰痛等に使用されることが多いが、一般用医薬品では小児向けの製品はない。
- c シャクヤクは、ボタン科のシャクヤク又はその近縁植物の根を用いた生薬で、鎮痛鎮痙作用、鎮静作用を示し、内臓の痛みにも用いられる。
- d エテンザミドは、痛みの伝わりを抑える働きが中心である他の解熱鎮痛成分に比べ、痛みの発生を抑える働きが非常に強く、予期せぬ作用の増幅が懸念されることから、他の解熱鎮痛成分と組み合わせて配合してはならないとされている。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問25 眠気を促す薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から
選びなさい。

- a 抗ヒスタミン成分を主薬とする睡眠改善薬の場合、目が覚めたあとも、注意力の低下や寝ぼけ様症状、判断力の低下等の一時的な意識障害、めまい、倦怠感を起こすことがある。
- b 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、一時的な睡眠障害の緩和のほか、慢性的な不眠症状や妊娠中に生じる睡眠障害についても適用対象である。
- c 柴胡加竜骨牡蛎湯は、構成生薬としてカンゾウを含み、虚弱体質で神経が昂ぶる人における神経症、不眠症に適するとされるが、胃腸の弱い人では不向きとされている。
- d ブロムワレリル尿素については、胎児障害の可能性があるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性は使用を避けることが望ましい。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問26 カフェインに関する次の記述について、()に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

安全使用の観点から留意すべき作用としては、胃液の分泌を (a) させる作用や心筋を (b) させる作用がある。また、眠気防止薬におけるカフェインの1回摂取量はカフェインとして (c) mgが上限とされている。

下欄

- | | a | b | c |
|---|----|----|-----|
| 1 | 抑制 | 興奮 | 200 |
| 2 | 亢進 | 鎮静 | 500 |
| 3 | 亢進 | 興奮 | 200 |
| 4 | 抑制 | 鎮静 | 500 |
| 5 | 亢進 | 興奮 | 500 |

問27 乗物酔い防止薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 塩酸ジフェニドールは、抗ヒスタミン成分と共通する化学構造や薬理作用は持っておらず、専ら抗めまい成分として使用される。
- b ジプロフィリンなどのキササンチン系と呼ばれる成分は、不安や緊張などの心理的な要因を和らげ、それらに起因する乗物酔いの症状を軽減することを目的とした鎮静成分である。
- c 塩酸メクリジンは、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが遅く持続時間が長く、専ら乗物酔い防止薬に配合されている。
- d 臭化水素酸スコポラミンは、消化管からよく吸収され、他の抗コリン成分と比べて脳内に移行しやすいとされるが、肝臓で速やかに代謝されてしまうため、抗ヒスタミン成分等と比べて作用の持続時間は短い。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問28 鎮咳去痰薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選
びなさい。

- a リン酸コデイン、リン酸ジヒドロコデインは、依存性がある成分であり、麻薬
性鎮咳成分と呼ばれる。また、主な副作用として下痢が現れることがある。
- b 塩酸メチルエフェドリン等のアドレナリン作動成分は、交感神経系を刺激して
気管支を拡張させる作用を示す。
- c 鎮咳去痰薬には解熱成分が配合されており、発熱を鎮める効果も期待できる。
- d マレイン酸クロルフェニラミン等の抗ヒスタミン成分は、気道粘膜での粘液分
泌を促進させ、痰を出やすくする目的で配合される場合がある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

問29 次の記述は、鎮咳薬又は去痰薬に配合される、ある生薬成分について説明したものである。最もあてはまる成分名を下欄から1つ選びなさい。

当生薬成分の摂取により、糖尿病の検査値に影響を生じることがあるため、1日最大配合量が原生薬として1.2g以上を含有する製品では、使用上の注意において、成分及び分量に関連する注意として、その旨が記載されている。

下欄

- 1 セキサシ
- 2 シャゼンソウ
- 3 オウヒ
- 4 セネガ
- 5 キョウニン

問30 口腔咽喉薬、うがい薬（含嗽薬）に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ヨウ素系殺菌消毒成分は、口腔内に使用されてもヨウ素が体内に吸収されることとはなく、甲状腺におけるホルモン産生に影響を及ぼすことはない。
- b 噴射式の液剤では、息を吸いながら噴射すると気管支や肺に入ってしまうおそれがあるため、軽く息を吐いたり、声を出しながら噴射することが望ましい。
- c ミルラは、カンラン科のミルラ又はその同属植物の全木から得られる樹脂、精油成分で、咽頭粘膜をひきしめる作用（収斂作用）のほか、抗菌作用も期待して用いられる。
- d ヨウ素は、レモン汁やお茶などに含まれるビタミンC等の成分と反応すると殺菌作用が増強されるため、ヨウ素系殺菌消毒成分が配合された含嗽薬では、そうした食品を摂取した直後の使用や混合は避けることが望ましい。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問31 胃の薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 総合胃腸薬は、制酸と健胃のように相反する作用を期待するものが配合されている場合もあるが、胃腸の状態によりそれらの成分に対する反応が異なり、総じて効果がもたらされると考えられている。
- b 制酸成分のうち、アルミニウムを含む成分については、透析療法を受けている人では使用を避ける必要がある。
- c 合成ヒドロタルサイトは、カルシウムを含む制酸成分であり、胃酸の中和作用のほか、胃粘膜にゼラチン状の皮膜を形成して保護する作用もあるとされる。
- d オウバク、オウレン等生薬成分が配合された健胃薬の服用にあたり、その味や香りが気になる場合、散剤をオブラートで包んで服用しても効果に影響はない。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問32 次の胃粘膜保護・修復成分のうち、血栓のある人や血栓を起こすおそれのある人が使用する場合、その適否について、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談することが望ましいものを1つ選びなさい。

- 1 スクラルファート
- 2 テプレノン
- 3 ゲファルナート
- 4 ソファルコン
- 5 塩酸セトラキサート

問33 腸の薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 整腸成分として、ビフィズス菌等の生菌成分のほか、ケツメイシ、ゲンノショウコ、アセンヤク等の生薬成分が用いられることもある。
- b ヒマシ油は、小腸でリパーゼの働きによって生じる分解物が、小腸を刺激することで瀉下作用をもたらすと考えられている。
- c ビスマスを含む成分は、収斂作用のほか、腸内で発生した有毒物質を分解する作用も持つとされる。
- d 細菌感染による下痢の症状を鎮めることを目的として用いられる塩化ベルベリンは、通常の腸管内に生息する腸内細菌に対して抗菌作用を示すことはない。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	誤	正

問34 瀉下薬に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 マルツエキスは、主成分である麦芽糖が腸内細菌によって分解（発酵）して生じるガスによって便通を促すとされ、主に乳幼児の便秘に用いられる。
- 2 麻子仁丸は、構成生薬としてダイオウを含み、便秘に適するとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、不向きとされている。
- 3 ピコスルファートナトリウムは、胃で分解され、その分解物が大腸への刺激作用を示すようになる。
- 4 硫酸ナトリウムは、服用により血液中の電解質のバランスが損なわれ、心臓の負担が増加し、心臓病を悪化させるおそれがある。

問35 胃腸鎮痛鎮痙薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ロートエキスについては、吸収された成分の一部が母乳中に移行して乳児の脈が遅くなる（徐脈）おそれがあるため、母乳を与える女性では使用を避けるか、使用期間中の授乳を避ける必要がある。
- b 塩酸パパベリンは、消化管の平滑筋に直接働いて胃腸の痙攣を鎮める作用を示すとされるが、胃液分泌を抑える作用は見出されない。
- c 急な胃腸の痛みは、主として胃腸の過剰な動き（痙攣）によって生じ、消化管の運動は、交感神経系の刺激によって亢進する。
- d オキセサゼインは、局所麻酔作用のほか、胃液分泌を抑える作用もあるとされ、胃腸鎮痛鎮痙薬と制酸薬の両方の目的で使用される。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問36 駆虫薬に関する次の記述について、()に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

パモ酸ピルベニウムは、(a)の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示すとされ、その服用により尿や糞便が(b)着色することがある。水に溶けにくいため、消化管からの吸収は(c)とされている。

下欄

- | | a | b | c |
|---|----|----|-----|
| 1 | 蟯虫 | 赤く | 少ない |
| 2 | 回虫 | 青く | 多い |
| 3 | 蟯虫 | 赤く | 多い |
| 4 | 蟯虫 | 青く | 少ない |
| 5 | 回虫 | 赤く | 多い |

問37 強心薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a センソが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で噛み砕いてから服用することとされている。
- b 強心薬は、疲労やストレス等による軽度の心臓の働きの乱れについて、心臓の働きを整え、動悸や息切れ等の症状の改善を目的とする医薬品である。
- c センソを含有する一般用医薬品は、センソとしての1日用量が10mg以下となるよう用法・用量が定められている。
- d ロクジョウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を用いた生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を鎮める等の作用があるとされる。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	正

問38 高コレステロール改善薬及び貧血用薬に関する次の記述において、正しいものの組み合わせを1つ選びなさい。

- a 高コレステロール改善成分である大豆油不飽和化物質（ソイステロール）は、水溶性物質であるため、悪心、胃部不快感等の消化器系の副作用が現れることがある。
- b パンテチンは、肝臓におけるコレステロール代謝を正常化する働きがあるとされ、低密度リポ蛋白質（LDL）や高密度リポ蛋白質（HDL）の分解を促す効果を期待して用いられる。
- c 鉄分の吸収は空腹時のほうが高いとされているが、消化器系への副作用を軽減するために、貧血用薬（鉄製剤）は食後に服用することが望ましいとされる。
- d 銅はヘモグロビンの産生過程で、鉄の代謝や輸送に重要な役割を持つことから、貧血用薬には、補充した鉄分を利用してヘモグロビンが産生されるのを助ける目的で、硫酸銅が配合される場合がある。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問39 循環器用薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを1つ選びなさい。

- a 三黄瀉心湯は、構成生薬としてダイオウを含み、本剤を使用している間は、瀉下薬の使用を避ける必要がある。
- b 高血圧や心疾患に伴う諸症状を改善する一般用医薬品は、症状の緩和のみならず、高血圧や心疾患そのものの治療を目的とするものである。
- c ユビデカレノンは、コエンザイムQ10とも呼ばれ、肝臓や心臓などの臓器に多く存在し、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分で、摂取された栄養素からエネルギーが産生される際にビタミンB群とともに働く。
- d ヘプロニカートは、代謝されてパントテン酸が遊離し、その働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされ、ビタミンCと組み合わせて用いられることが多い。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問40 下表の成分を含む痔の薬（坐剤）に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

1 個 (1.75 g) 中	
プレドニゾン酢酸エステル (酢酸プレドニゾン)	1 m g
リドカイン	60m g
アラントイン	20m g
ビタミンE酢酸エステル (酢酸トコフェロール)	50m g

- a 上表のプレドニゾン酢酸エステルの含有量であれば、長期連用を避ける必要はない。
- b リドカインは、皮膚や粘膜などの局所に適用されると、その周辺の知覚神経に作用して刺激の伝達を不可逆的に遮断する作用を示す局所麻酔成分である。
- c アラントインは、痔による肛門部の創傷の治癒を促す効果を期待して用いられる組織修復成分である。
- d ビタミンE酢酸エステルは、肛門周囲の末梢血管を収縮させることによる止血効果を期待して配合されている。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問41 泌尿器用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選
びなさい。

- a 日本薬局方収載のカゴソウは、煎薬として残尿感、排尿に際して不快感のあるものに用いられる。
- b 牛車腎気丸は、胃腸が弱く下痢しやすい人、のぼせが強く赤ら顔で体力の充実している人では不向きとされる。
- c 竜胆瀉肝湯は、構成生薬としてカンゾウを含み、比較的体力があり、下腹部の筋肉が緊張する傾向がある人における、排尿痛、残尿感、尿の濁り、こしけ（おりもの）の症状に適するとされる。
- d ウロウルシは、経口的に摂取した後、尿中に未代謝物と分解代謝物が排出されるが、分解代謝物には抗菌作用はない。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	誤

問42 婦人薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを1つ選びなさい。

- a 女性ホルモン成分が配合された婦人薬には、膣粘膜又は外陰部に適用されるものがあり、これらの成分は循環血液中に移行せず、適用部位にとどまり局所的に薬効を示す。
- b エストラジオールが配合された婦人薬は、長期連用により血栓症を生じるおそれがある。
- c センキュウは、強壯、鎮静、鎮痛等の作用を期待して用いられるが、血流不全を起こしやすいため、血色不良や冷えの症状を有する人には不向きである。
- d 五積散は、構成生薬としてマオウを含むため、心臓病、高血圧、糖尿病又は甲状腺機能障害の診断を受けた人では、症状を悪化させるおそれがある。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問43 アレルギー用薬に関する次の記述について、()に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

抗ヒスタミン成分は、ヒスタミンの働きを抑える作用以外に抗コリン作用も示すため、(a) や口渇、(b) 等の副作用が現れることがある。鼻炎用内服薬では、(c) を刺激して鼻粘膜の血管を(d) させることによって鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として、アドレナリン作動成分が配合されている場合がある。

下欄

	a	b	c	d
1	排尿困難	下痢	交感神経系	弛緩
2	頻尿	便秘	副交感神経系	収縮
3	排尿困難	便秘	副交感神経系	収縮
4	排尿困難	便秘	交感神経系	収縮
5	頻尿	下痢	副交感神経系	弛緩

問44 アレルギー用薬に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 医療機関で塩酸セレギリンを処方されて治療を受けている人が、塩酸プソイドエフェドリンの配合された鼻炎用内服薬を使用した場合、体内でのプソイドエフェドリンの代謝が促進され、作用が減弱する。
- 2 塩酸プソイドエフェドリンは、他のアドレナリン作動成分に比べて中枢神経系に対する作用が強く、副作用として不眠や神経過敏が現れることがある。
- 3 ジフェンヒドラミンを含む成分は、吸収されたジフェンヒドラミンの一部が乳汁に移行して乳児に昏睡を生じるおそれがあるため、母乳を与える女性は使用を避けるか、使用する場合には授乳を避ける必要がある。
- 4 十味敗毒湯、消風散及び当帰飲子は、皮膚のアレルギー症状を主とする人に適する漢方処方製剤とされている。

問45 鼻炎用点鼻薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬の対応範囲は、急性又はアレルギー性の鼻炎及びそれに伴う副鼻腔炎であり、蓄膿症などの慢性のものは対象となっていない。
- b 塩酸テトラヒドロゾリンが配合された点鼻薬を過度に使用すると、鼻粘膜の血管が反応しなくなり、逆に血管が拡張して鼻づまりがひどくなりやすい。
- c 塩化ベンザルコニウムは、陰性界面活性成分で、黄色ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌に対する殺菌消毒作用を示すが、結核菌や真菌類、ウイルスには効果がない。
- d クロモグリク酸ナトリウムは、肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑える作用を示すが、抗ヒスタミン成分によりその作用が抑制されるため、両者を組み合わせて使用することは適当でない。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問46 眼科用薬に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 通常、ソフトコンタクトレンズを装着したままの点眼は避けることとされている点眼薬が多いが、1回使い切りタイプとして防腐剤を含まない製品では、装着時にも使用できるものもある。
- 2 点眼薬1滴の薬液量は約 $50\mu\text{L}$ であるのに対し、結膜囊の容積は $30\mu\text{L}$ 程度とされており、一度に何滴点眼しても効果が増すわけではない。
- 3 点眼薬点眼後は、まばたきを数回繰り返し、薬液を結膜囊内に行き渡らせる。その際、目頭を軽く押さえてしまうと、薬液が鼻腔内に流れ込んでしまうため、副作用を起しやすくなる。
- 4 一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の症状を改善できるものではなく、目のかすみや緑内障による症状であった場合には効果が期待できないばかりでなく、配合成分によっては、緑内障の悪化につながるおそれがある。

問47 点眼薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a メチル硫酸ネオスチグミンは、毛様体におけるアセチルコリンの働きを抑えることで、目の調節機能を改善する効果を持つ。
- b 硫酸亜鉛は、眼粘膜の水分と結合して皮膜を形成し、外部の刺激から保護する作用を期待して配合されている場合がある。
- c スルファメトキサゾールは、抗菌作用と抗ウイルス作用を期待して、細菌やウイルス感染による結膜炎などの化膿性の症状の改善に用いられる。
- d クロモグリク酸ナトリウムは、アレルギー性でない結膜炎等に対しては無効であり、2日間使用して症状の改善がみられなければ、アレルギー以外の原因が考えられる。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	誤	誤	正
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	正	正

問48 皮膚に用いる薬のうち、きず口等の殺菌消毒成分に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a マーキュロクロムは、ヨードチンキと混合すると殺菌作用が増強され、副作用が生じやすくなる。
- b アクリノールは、赤色の色素で、連鎖球菌や黄色ブドウ球菌などの化膿菌、真菌に対する殺菌消毒作用を示す。
- c ヨウ素の殺菌力はアルカリ性になると低下するため、石鹼等と併用する場合には、石鹼分をよく洗い落としてから使用することが望ましい。
- d オキシドールの殺菌作用は、過酸化水素の分解に伴って発生する活性酸素による酸化、及び発生する酸素による泡立ちによる物理的な洗浄効果であり、作用の持続性は乏しく、組織への浸透性も低い。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問49 一般的な創傷への対応に関する次の記述について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 火傷の場合は、できるだけ早く、水道水等で熱傷部を冷やした後、水疱（水ぶくれ）を破ってからガーゼ等で軽く覆うとよい。
- 2 創傷面が汚れているときは、無理に洗い流さない方がよく、創傷表面を乾燥させるタイプの医薬品を使用すれば、内部の雑菌が死滅する。
- 3 通常、人間の外皮表面に存在する皮膚常在菌は、化膿の原因となる黄色ブドウ球菌、連鎖球菌等の増殖因子であり、創傷部に殺菌消毒薬を繰り返し使用して皮膚常在菌まで殺菌することで、治癒しやすくなる。
- 4 出血しているときは、創傷部に清潔なガーゼやハンカチ等を当てて圧迫し、止血するが、その際、創傷部を心臓より高くして圧迫した方が止血効果が高い。

問50 皮膚に用いる薬のうち、痒み、腫れ、痛み等を抑える配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a アトピー性皮膚炎は、非ステロイド性抗炎症成分を配合した一般用医薬品を長期間、継続して使用することにより、寛解に向けた十分な対応が可能である。
- b ヒドロコルチゾンの好ましくない作用として、末梢組織の免疫機能を低下させる作用を示し、細菌、真菌、ウイルス等による皮膚感染が現れることがある。
- c ウフェナマートは、湿疹や皮膚炎、かぶれ、あせも等による皮膚症状の緩和を目的として用いられる非ステロイド性抗炎症成分である。
- d 温感刺激成分を主薬とする貼付剤は、その効果を高めるため、貼付部位をコタツや電気毛布等の保温器具で温めるのがよい。

下欄

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問51 皮膚に用いる薬に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 あるイミダゾール系成分が配合されたみずむし薬でかぶれたことがある人は、他のイミダゾール系成分が配合された製品も避けることが望ましい。
- 2 毛髪用薬である塩化カルプロニウムは、コリンエステラーゼによる分解を受けやすく、作用が持続しないとされる。
- 3 イオウは、皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質軟化作用を示し、抗菌、抗真菌作用も期待され、にきび用薬等に配合されている場合もある。
- 4 ピロールニトリンは、菌の呼吸や代謝を妨げることにより、皮膚糸状菌の増殖を抑えるが、単独での抗真菌作用は弱いため、他の抗真菌成分と組み合わせて配合される。

問52 歯や口中に用いる薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 歯痛薬の殺菌消毒成分であるフェノールは、粘膜刺激を生じることがあるため、歯以外の口腔粘膜や唇に付着しないよう注意が必要である。
- b カルバゾクロムは、炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える作用を期待して外用薬に配合されるが、内服で用いると副作用が現れやすいため、内服薬には配合されない。
- c 歯痛薬は、歯の齲蝕（むし歯）による歯痛を応急的に鎮めるとともに、齲蝕の修復を行うことを目的とする一般用医薬品である。
- d 茵陳蒿湯は、口内炎に適するとされる漢方処方製剤であり、構成生薬としてダイオウを含み、まれに重篤な副作用として肝機能障害が起こるとされる。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問53 禁煙補助剤に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選
びなさい。

- a ニコチンは、交感神経系を興奮させる作用を示し、アドレナリン作動成分が配
合された医薬品との併用により、その作用を増強させるおそれがある。
- b 咀嚼剤は、菓子のガムのように噛んで唾液を多く分泌させ、ニコチンを唾液と
ともに飲み込むことにより本来の効果を発揮する。
- c インスリン製剤を使用している人が禁煙補助剤を使用した場合、ニコチンがイ
ンスリンの血糖降下作用に拮抗して、効果を妨げるおそれがある。
- d 禁煙補助剤は、喫煙を完全に止めた状態で使用するものではなく、使用しなが
ら徐々に喫煙量を減らしていくものであり、禁煙達成には時間を要するため、6
ヶ月以上の使用が推奨されている。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	正

問54 滋養強壮保健薬のうち、ビタミン成分に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ビタミンB 1は、脂質からのエネルギー産生に不可欠な栄養素で、腸管運動を抑制する働きもある。ビタミンB 1主薬製剤は、塩酸チアミン等が主薬として配合された製剤であり、神経痛、下痢、脚気等の症状の緩和に用いられる。
- b リン酸リボフラビンナトリウムが主薬として配合された製剤の摂取により、尿が黄色になることがある。
- c 一般用医薬品におけるビタミンB 6の1日分量は4000国際単位が上限となっており、妊娠3ヶ月以内の妊婦、妊娠していると思われる女性及び妊娠を希望する女性では、過剰摂取に留意する必要がある。
- d コレカルシフェロールが主薬として配合された製剤の過剰摂取により、高カルシウム血症を発症することがあり、この初期症状として、便秘、嘔吐、食欲減退、多尿等が現れる。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問55 次の記述は、滋養強壯保健薬のある成分の作用を説明したものである。最もあてはまる成分名を下欄から1つ選びなさい。

髪や爪、肌などに存在するアミノ酸の一種で、皮膚におけるメラニンの生成を抑えるとともに、皮膚の新陳代謝を活発にしてメラニンの排出を促す働き、また、肝臓においてアルコールを分解する酵素の働きを助け、アセトアルデヒドと直接反応して代謝を促す働きがあるとされる。

下欄

- 1 タウリン
- 2 アスコルビン酸
- 3 システイン
- 4 ガンマーオリザノール
- 5 アスパラギン酸ナトリウム

問56 漢方処方製剤・生薬製剤に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ブシは、キンポウゲ科のハナトリカブトの塊根であり、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を持つほか、鎮痛作用を示すが、アスピリン等と異なり、胃腸障害等の副作用は示さない。
- b 肥満症に用いられる漢方処方製剤については、どのような肥満症にも適するものであり、生活習慣の改善は重要ではない。
- c 清上防風湯は、構成生薬としてカンゾウを含み、にきびに適すとされるが、胃腸の弱い人では食欲不振、胃部不快感の副作用が現れやすい等、不向きとされる。
- d サイシンは、ウマノスズクサ科のウスバサイシン又はケイリンサイシンの果実を用いた、鎮痛、鎮咳、利尿等の作用を有する生薬であるが、その根及び根茎には、腎障害を引き起こすとされるアリストロキア酸が含まれている。

下欄

- 1 (a、b)
- 2 (a、c)
- 3 (b、d)
- 4 (c、d)

問57 消毒薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a クレゾール石鹼液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、ウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
- b 手指又は皮膚の殺菌・消毒を目的とする消毒薬のうち、器具等の殺菌・消毒を併せて目的とする製品については、医薬品としてのみ製造販売されている。
- c 殺菌・消毒成分の原末や濃厚液を誤って飲み込んだ場合には、自己判断で安易に吐き出させることは避けるべきである。
- d イソプロパノールは、ウイルスに対する不活性効果がエタノールよりも高い。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	正

問58 衛生害虫に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ゴキブリの燻蒸処理により、成虫とともに卵にも医薬品成分が浸透し、殺虫することが可能である。
- b シラミの医薬品による防除方法として、殺虫成分のペルメトリンが配合されたシャンプーやてんか粉が用いられる。
- c ツツガムシが生息する可能性がある場所に立ち入る際には、専ら忌避剤による対応が図られるが、忌避剤の使用だけに頼らず、なるべく肌の露出を避けるなどの防御方法を心がけることが重要である。
- d クロルピリホスメチルは、コリンエステラーゼと不可逆的に結合してその働きを阻害することにより殺虫作用を示し、人が高濃度又は大量に曝露した場合、縮瞳、呼吸困難、筋肉麻痺等の症状が現れるおそれがある。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問59 次の殺虫成分名とその成分分類との関係について、誤っているものを1つ選びなさい。

(殺虫成分名)	(成分分類)
1 プロポクスル	－ 有機塩素系殺虫成分
2 メトキサジアゾン	－ オキサジアゾール系殺虫成分
3 ジクロルボス	－ 有機リン系殺虫成分
4 メトプレン	－ 昆虫成長阻害成分
5 フタルスリン	－ ピレスロイド系殺虫成分

問60 一般用検査薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 妊娠検査薬は、検体が高濃度の蛋白尿の場合、非特異的な反応により擬陽性を示すことがあるが、糖尿の場合は、高濃度でも擬陽性を示すことはない。
- b 尿糖・尿蛋白検査薬の検査結果に影響を与える要因の1つとして、食事等の影響があり、通常、尿は弱酸性であるが、食事その他の影響で中性～弱アルカリ性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。
- c 尿糖の検査を行う場合、原則として早朝尿（起床直後の尿）を検体とし、激しい運動の直後は避ける必要がある。
- d 妊娠検査薬は、尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の有無を調べるものであり、通常、実際に妊娠が成立してから4週目前後の尿中hCG濃度を検出感度としている。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	正